

平成27年度 第4回新道区地域協議会
次 第

日時：平成27年6月23日（火） 午後6時30分～
会場：公民館新道分館 多目的ホール

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

- 新道区の自主的審議に繋げるための意見交換

4 その他

- 次回の開催日程について

 月 日（ ）午後 時 分～ 公民館新道分館 多目的ホール

5 閉 会

新道区の自主的審議に繋げるための意見交換 メモ

第 グループ グループメンバー

--

自主的審議につなげるための意見交換
～みんなが住みたい！住み続けたい！新道区とするために！～

■ 今後の手順（案）



■ 自主的審議による到達目標

最終的には次の2通りが考えられる。

- ① 市に意見書（意見や提案）を提出する。
- ② 最適な実施主体に働きかけ、取組みを促す。（必要に応じて地域活動支援事業を活用）

■ 新道区協議会委員が考える今後検討していきたい事項（現時点）

これまでの発言や提出シートの内容を整理すると大枠で次の3つの検討方向が考えられる。

① 安全・安心に暮らせる新道区とする方策を検討したい

- 通学路において児童が交通事故に巻き込まれないための取組を検討する
- 誰もが安全に闊歩できる新道区とするための取組を検討する
- 自然災害に強い新道区とするための方策を検討する

② 持続可能なコミュニティのあり方を検討したい

- 北部・中部・南部の住民の一体感を醸成する取組（新たなイベント等）を検討する
- 現在のコミュニティの枠組みが妥当か検証し、新しいコミュニティのあり方を検討する
- まちづくり活動団体へのバックアップ体制のあり方を検討する
- 若い世代のまちづくり活動への参加環境を整える策を検討する

③ 新道区のイメージアップと活性化に向けた方策を検討したい

- 関川河川区域の有効活用策（自転車専用道路の整備等）を検討する
- 稲田商店街の再活性化策を検討する
- 区内の運動施設や公園の充実と魅力向上に向けた取組を検討する

■ 意見交換のポイント

- ① 新道区の実情に相応しい内容かどうか？
- ② 具体的な手法が見えてくるか？
- ③ それぞれの検討事項で課題（ボトルネック）となるものは何か？
- ④ ボトルネックとなっているものは、地域住民だけで解決できるか？
- ⑤ 行政との連携が必要な検討項目かどうか？
- ⑥ 取組の採算性はどうか？
- ⑦ 具体的に動かした場合、持続可能性は高いか？
- ⑧ 取組の実施主体として相応しい団体や人物は考えられるか？
- ⑨ 短期的に取組むべきことか、中長期的に取組むべきことか？

SWOT分析による 自主的審議事項の 検討シート (新道区)

機会 (Opportunities)

- A 上越魚沼地域振興快速道路（略称：上沼道）が開通する。（H30に寺IC～三和IC間が開通する見込みである）
- B 総合運動公園の整備（武道館の建設など）やスポーツ大会の誘致による交流人口の拡大が期待できる。
- C 広大な関川河川区域の活用（治水機能・利水機能に加え、親水・レクリエーション機能、生活環境機能、防災機能、収容機能、エネルギー供給機能）が期待できる。
- D 新潟県のドクターヘリの運航が開始されたことにより、地域内住民の救命率の向上が期待できる。（離発着可能な医院や箇所が地域内にある。）
- E 新南公園用地が売却され、地域活性化につながる新たな用途に活用されることが期待できる。
- F 周辺地域からの転入により、今後も人口が増加していくことが期待できる。

脅威 (Threats)

- a 災害時等に県道板倉富岡線が大渋滞し、災害時に避難路として十分機能しない恐れがある。
- b 海拔が低い津波被害（津波が関川を逆流し新道区内が冠水）が発生する懸念がある。
- c 地域外から進出している大規模商業施設の撤退や上越ウイングマーケットセンターの衰退により、空洞化する商業地域の発生が懸念される。
- d 幹線道路のみならず田園地域内の市道も周辺地域の住民の通勤経路となっており、児童等地域住民が交通事故に巻き込まれることが懸念される。（特に降雪期）
- e 価値観の変化により地域活動への参加意欲が減退傾向にある。（地域コミュニティーの崩壊が懸念される）
- f 農業継承者の減少と農業の低迷により新道区でも耕作放棄地が今後発生・増加することが懸念される。
- g 上流地域の降雨による河川の急激な増水や堤防の決壊が懸念される。
- h 国や地方の財政難により、インフラ整備のスピードダウンや行政サービスの低下が懸念される。

強み (Strengths)

- (1) 北陸自動車道路のインターチェンジがある。
- (2) 国道18号線が通り、インターチェンジが5箇所ある。
- (3) 上越市の中心エリアに位置する地域である。
- (4) 救急指定病院で規模も大きい総合病院が2箇所ある。
- (5) 小規模病院が地域内に数多く立地している。
- (6) ドクターヘリの離発着が可能なヘリポートが2箇所ある。
- (7) 看護大学がある。
- (8) 関川の河川敷や堤防上の道路は多くの人から散歩やサイクリングで活用されている。
- (9) 地域外からのアクセスが良好な大規模ショッピングセンターが3箇所ある。
- (10) 第3次産業（商業・サービス業）の就労場所が多い。
- (11) 生産年齢人口の比率が高い。
- (12) 少年野球場やテニスコートがある。
- (13) 国道18号線のほとんどが盛土構造となっており、津波や洪水時に避難所として活用することが可能である。
- (14) 小学校が2校ある。
- (15) 天然温泉施設がある。
- (16) 広大な田園地帯があり景観が良好である。
- (17) 稲田祇園祭（神輿の川下りは全国的にも珍しい）
- ☑ 地域外からの交流人口が多い。

「強み」によって「機会」を最大限に活用するために取り組むべきことは何か？

（例）自然環境豊かな郊外地でありながら、生活利便性が今後も更に向上することを捉えた新道区の人口増加策を検討する。

「強み」によって「脅威」による悪影響を回避するために取り組むべきことは何か？

（例）津波や大雨による水害時の被害を最大限縮小するため、国道や高速道を避難所として活用する方策を検討する。

弱み (Weaknesses)

- ① 県道板倉富岡線をはじめ生活道路の幅員が狭いうえ歩道も無い危険な箇所が多い。
- ② 南北に細長い地域形状であることから連帯感に乏しく、地域内交流が希薄である。
- ③ 北部、中部地域の多くが市街化調整区域であり、土地利用が制限されている。
- ④ 稲田商店街の衰退傾向が止まらない。（空き店舗・町屋が増加している）
- ⑤ 津波発生時に避難可能な建物や避難所が少ない。
- ⑥ 北部には公園施設がほとんどない。
- ⑦ 稲田商店街に駐車場がない。
- ⑧ 文化、スポーツ施設が少ない。
- ⑨ 地域一体で行われる行事がない。
- ⑩ アパートが多く居住者の出入が多い。
- ⑪ 休日に慢性的に渋滞する箇所がある。
- ⑫ 公共交通が不十分である。
- ⑬ 区民が集える公共施設が少ない。
- ⑭ 区内で自主的に活動している団体が少ない。
- ⑮ 商業施設と地域との交流が少ない。
- ⑯ 史跡や名所が少ない。（魅力的な観光スポットがない）
- ⑰ 農村部の集落の人口が減少している。
- ⑱ 田園地帯の通学路の街灯が少ない。
- ⑲ 工場が少なく、第2次産業の就労場所が少ない。
- ⑳ 市内では下水道整備が遅れている地域である。

「弱み」によって「機会」を逃さないために取り組むべきことは何か？

（例）稲田雁木通り等に増加しつつある空き家対策を検討する。

「弱み」と「脅威」により最悪の結果となることを回避するために取り組むべきことは何か？

（例）児童をはじめ地域住民の交通事故被害の発生を最小限にするための取組みを検討する。